

スマートエリアの取組状況について

令和4年10月28日
(機関名：福井大学)

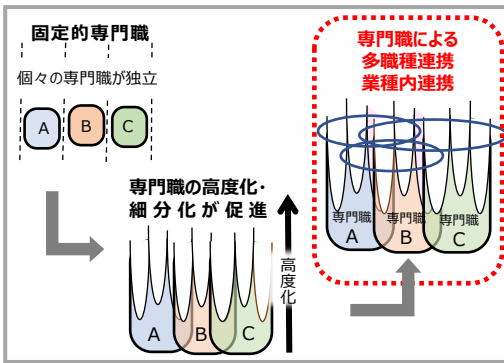
背景・必要性

① 専門職に求められる資質・能力の変化

それぞれが個々の専門知識を持ち合わせる固定的専門職。

高度化する知識・技能の習得にあわせて、絶えず具体的な課題に対峙しながら、異業種と協働できる資質・能力が専門職に求められている。

多職種連携能力の育成が必要不可欠。

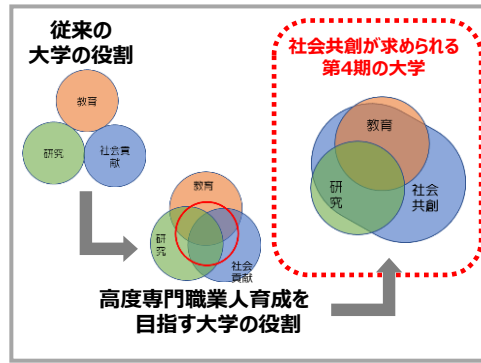


② 地方国立大学の役割の変化

地域特性を踏まえた教育・研究・社会貢献を行う。

地方国立大学は、社会共創の中核的役割を期待される。

福井県において、嶺南地域での社会共創が最も求められており、福井県・嶺南市町と本学が連携し、包括的に地域課題解決を行うことが必要。



ミッション（令和4年度以降）

- 現実課題の解決を通して知識・技能連携能力を実装化
- 多職種連携・学部等連携を推進し、卓越高度専門職業人を育成



嶺南地域の地域課題に取り組むプロジェクトの推進により社会共創教育の実装と地域振興を実現

嶺南地域共創センターと嶺南2市4町との取り組み

格致によりて
人と社会の未来を拓く



国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI

若狭町

●わかさ健活プロジェクト **医**
「AI・IoTなどのデジタル技術」と「地域住民による支え合い活動」により地域の高齢者の日々の健康づくりを支援し、町民の健康寿命の延伸をめざす。測定したデータは、本学医学部附属病院と連携し、「サルコペニア」との関連性の検証などに役立つ。



●若狭町スマートエリア構想・基本計画 **工**
JR上中駅前エリア内に点在する空き家・空き地の再整備を行うとともに、エリア内にIoT機器や再生可能エネルギーを導入することで、エリアの魅力を上げ、定住人口の確保等、人口減少の中でも持続可能なまちづくりを進める。

敦賀市

●障害児等支援者支援事業 **医**
発達障害児等に関わる支援者の困りごとへの相談・助言等を行う。令和4年5月25日に本学敦賀キャンパスにおいて第1回会議を開催した。

●スマートエリアビジョン等の策定への参画 **工**
敦賀市が進める「スマートエリアビジョン等の策定」に本学も参画する。これに関し、令和4年5月31日に本学敦賀キャンパスにおいて、敦賀市の施策に関する学生との意見交換会を開催した。



高浜町

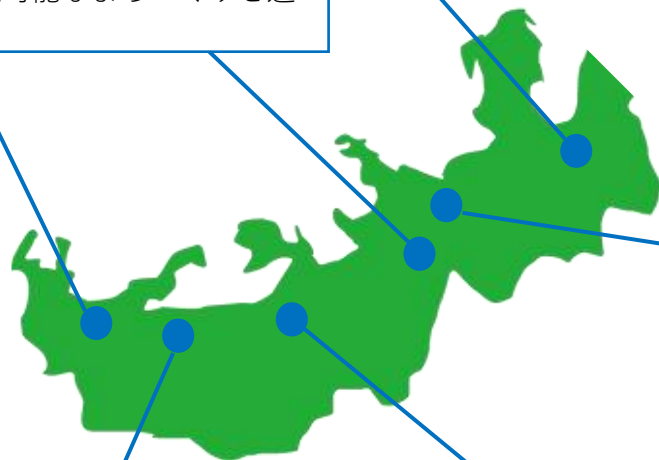
●健康のまちづくり **教 医 工 国**
行政・地域住民・大学等の協同連携体制、「たかはまモデル」を確立。地域医療体制の充実のみならず、住み慣れた地域で健康に暮らすための「健康のまちづくり」を推進している。



●寄附講座の設置 **医**
全国初の市町村単独医学部寄附講座である「地域プライマリケア講座」が設置された。

おおい町

●カーボンフリーなまちづくり構想 **工 国**
おおい町内にある資源を使って、具体的にどのようなことができるのかを検討するためのワーキンググループを設置し、令和4年6月10日におおい町役場において、ワーキングを開催した。



美浜町

●美浜にぎわい創出プロジェクト **工 国 地**
美浜町の地域活性化を図るため、本学教員及び外部有識者によるプロジェクトチームが設置された。令和4年度前期に3回の会議を開催した。また、本学学生の実地実習を初回の会議に併せて実施した。



小浜市

●小浜Go膳プロジェクト **医**
障害者就労継続支援施設に個別調理システムを導入し、利用者の健康状態に応じた個別の食事メニューを提供する。個別調理システム利用者の栄養状況の推移を半年毎に検診を行う予定。



- 教** ...教育学部
- 医** ...医学部 **工** ...工学部
- 国** ...国際地域学部
- 地** ...地域創生推進本部

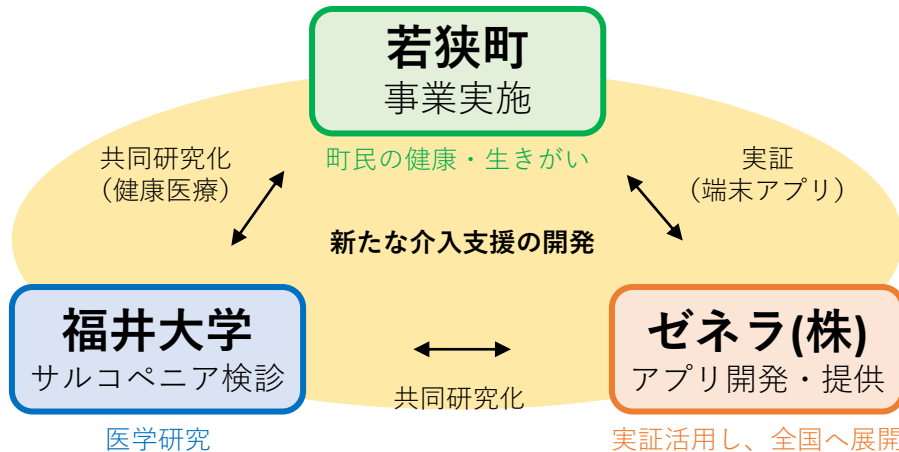
わかさ健活プロジェクト

● 目的

超高齢化と就労世代の減少による介護者不足が進む若狭町において、要介護高齢者の増加抑制は喫緊の課題である。要介護高齢者の抑制にはサルコペニア／フレイル予防の推進が欠かせないため、住民相互の協力による共助型健康支援の実現と、IT/AI技術の併用によってサルコペニアを予防し、高齢者の健康寿命の延伸を図る。

● 概要

○福井大学と若狭町が共創して、地域の高齢者を対象にサルコペニア予防検診と保健指導を行い、高齢者の健康づくり活動を支援する。
○住民の日々の健康づくり活動を支援するための手段として、地域住民による共助型健康支援に取り組む。
○民間事業者（ゼネラ株式会社）による健康支援アプリの開発・活用を進め、フォーマルサービス（行政）、インフォーマルサービス（自治会、ボランティア団体）の連携体制の構築により、地域住民の健康・福祉の増進を図る。



若狭町スマートエリア構想・基本計画

● 目的

都市機能が集積するJR駅近郊エリアにおいて、エリア内に点在する空き家・空き地を再整備するとともに、脱炭素化の推進とIoTを導入することで、定住人口の確保、行政・自治機能の維持など、人口減少の中でも維持可能なまちづくりを進める。

● 概要

一団とした新たな住宅団地整備ではなく、エリア全体で、既存機能を活用・発展させ、新しい居住空間の整備を促進することで、新しい住宅団地整備と同等の効果を発揮させる。

- ・ エリア内に点在する空き地を整理し分譲化。民間による造成を基本とするが、先行して町による小規模分譲地もモデルとして造成。
- ・ 空き家のリノベーション
- ・ IoTを導入することでエリアの魅力を上げる
- ・ 再生可能エネルギーの導入

